

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2004-536614(P2004-536614A)

【公表日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【年通号数】公開・登録公報2004-048

【出願番号】特願2003-517208(P2003-517208)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/02	(2006.01)
A 6 1 P	9/04	(2006.01)
A 6 1 P	9/06	(2006.01)
A 6 1 P	9/12	(2006.01)
C 1 2 N	9/16	(2006.01)
C 1 2 Q	1/44	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	7/02	
A 6 1 P	9/04	
A 6 1 P	9/06	
A 6 1 P	9/12	
C 1 2 N	9/16	C
C 1 2 Q	1/44	

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月17日(2005.6.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

配列番号1、配列番号2または配列番号3と、少なくとも95%相同なアミノ酸配列からなる単離ポリペプチド。

【請求項2】

配列番号1の配列と同一である、請求項1に記載の単離ポリペプチド。

【請求項3】

配列番号2の配列と同一である、請求項1に記載の単離ポリペプチド。

【請求項4】

配列番号3の配列と同一である、請求項1に記載の単離ポリペプチド。

【請求項5】

配列番号1の配列を有し、セリン残基292、293、312または438位のうち少なくとも1つに置換変異を有する請求項1に記載の単離ポリペプチド。

【請求項6】

前記置換変異によってセリン残基がアラニンまたはアスパラギン酸残基で置換されている、請求項5に記載の単離ポリペプチド。

【請求項7】

配列番号2の配列を有し、セリン残基312または438位のうち少なくとも1つに置換変異を有する請求項1に記載の単離ポリペプチド。

【請求項8】

前記置換変異によってセリン残基がアラニンまたはアスパラギン酸残基で置換されている、請求項7に記載の単離ポリペプチド。

【請求項9】

ホスホジエステラーゼ・タイプ3のアイソフォームをコードしている核酸を含む発現ベクター。

【請求項10】

前記アイソフォームが請求項1に記載の単離ポリペプチドである、請求項9に記載の発現ベクター。

【請求項11】

前記アイソフォームが請求項2に記載の単離ポリペプチドである、請求項9に記載の発現ベクター。

【請求項12】

前記アイソフォームが請求項3に記載の単離ポリペプチドである、請求項9に記載の発現ベクター。

【請求項13】

前記アイソフォームが請求項4に記載の単離ポリペプチドである、請求項9に記載の発現ベクター。

【請求項14】

前記アイソフォームが請求項5に記載の単離ポリペプチドである、請求項9に記載の発現ベクター。

【請求項15】

前記アイソフォームが請求項7に記載の単離ポリペプチドである、請求項9に記載の発現ベクター。

【請求項16】

アイソフォーム選択的なホスホジエステラーゼ・タイプ3(PDE3)の阻害剤または活性化剤を同定する方法であって、

(a) 請求項1～8のいずれか一項に記載の単離ポリペプチドを得ること、

(b) 前記単離ポリペプチドに結合する少なくとも1つの試験化合物を同定すること、および

(c) PDE3の触媒活性の阻害または活性化について前記少なくとも1つの試験化合物をアッセイすること

からなる方法。

【請求項17】

前記少なくとも1つの試験化合物がファージ・ディスプレイ・ライプラリの一部である、請求項16に記載の方法。

【請求項18】

少なくとも1つの試験化合物の同定にバイオパニングすることが含まれる、請求項17に記載の方法。

【請求項19】

前記ファージ・ディスプレイ・ライプラリが無作為なペプチド配列からなる、請求項18に記載の方法。

【請求項20】

前記無作為なペプチド配列の長さが3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14または15アミノ酸である、請求項19に記載の方法。

**【請求項 2 1】**

アイソフォーム選択的な PDE3 調節剤を同定する方法であって、

(a) 請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の単離ポリペプチドを得ること、

(b) 前記単離ポリペプチドに結合する少なくとも 1 つの試験化合物を同定すること、および

(c) もう 1 つのポリペプチドが PDE3 に結合することを妨げる能力について前記少なくとも 1 つの試験化合物をアッセイすること

からなる方法。

**【請求項 2 2】**

前記もう 1 つのポリペプチドがプロテイン・キナーゼ、ホスファターゼまたはホスホリーゼである、請求項 2 1 に記載の方法。

**【請求項 2 3】**

アイソフォーム選択的な PDE3 の阻害剤、活性化剤または調節剤を薬理学的に有効な量で個体に投与することからなる、心収縮性を変調する方法。

**【請求項 2 4】**

拡張型心筋症および / または高血圧症を患っている個体を処置する方法であって、アイソフォーム選択的な PDE3 の阻害剤、活性化剤または調節剤を薬理学的に有効な量で該個体に投与することからなる方法。

**【請求項 2 5】**

前記阻害剤がアンチセンス阻害剤である、請求項 2 3 または 2 4 に記載の方法。

**【請求項 2 6】**

前記アンチセンス阻害剤がベクターから転写される、請求項 2 5 に記載の方法。